



La p'tite Fabrik

Designer de Grenier

フランスの歴史が生んだ作品





エスプリ / 歴史

アンティークとフランスの伝統をこよなく愛する二人によって2010年に設立されたラ・プティット・ファブリクは、かつてのフランスの家族、農業、工業の姿を物語る希少な証である古い布地(未加工または高品質の布地)のみを使用したコレクションを展開しています。

フランス全土から集められたこれらの素晴らしい布地は、私たちの工房で専任の布張り職人と洋裁職人によって製品(作品)へと仕上げられています。

私たちのコレクションは、個性的なものや数が非常に限られた布地で作られています。どれも歴史を感じさせる作品でありながらとても現代的で、今のインテリアによくマッチします。コレクションにはクッション、取り外しできる椅子カバー、キルト、格子模様の生地、肘掛け椅子、ベンチ、足のせ台、テーブルクロス、テーブルランナー(テーブルの真ん中に置く細長いファブリック)、バスケットなどがあります。

ラ・プティット・ファブリクの製品は、古い物を再生利用するトレンドの立役者としてメディアにも認められ、現在フランス、イタリア、ドイツ、英国、サン・バルテルミー島の高級装飾品ショップで販売されています。

ラ・プティット・ファブリクはまた、装飾デザイナーと共に一流の装飾を求めるホテルやレストランの改装も手がけています。



フランスの歴史とフランスの物語・・・実例

フランスの田舎より収集された1850年1930年代の希少な麻布のキャンバス地を、素敵なキルトとベッドスローとして再生させました。19世紀と20世紀の古いフラン硬貨が遊び心を添えている精緻な仕上げは、専任の女性洋裁職人の手によってフランスで製作され、比類のない独特の製品(作品)を完成させています。

どれも個性的な掛布団カバーは、1920年～1950年製のリンネルまたは木綿とリンネル混合生地の古いシーツを使用、それぞれにはかつての所有者によって贅沢な刺繍がほどこされています。当時のフランスの伝統では、結婚式に際し女性達の手で刺繍をほどこした数メートルものリンネル生地が、家族から花婿と花嫁へ贈られる風習がありました。花婿と花嫁のイニシャルがあしらわれた刺繍には、花模様や幾何学模様の刺繍が添えられています。





フランスの歴史とフランスの物語・・・事例

クッション・コレクションは、フランスの農業の歴史に光を当てています。1960年代の終わりまで使われていた穀物、肥料、小麦などを運ぶための古い麻袋（ジュート袋）で作られたクッションは、麻袋に印刷された製粉所や街のシンボルマーク、あるいは遠い昔に消滅した会社のロゴを活かしたデザインとなっております。

例えば、（左から右へ）：ペルビニャンの町の有名な建造物「キャステイレット」と共に描かれたペルビニャンの製粉所。「アルガス・カリ肥料会社」のコウノトリをシンボルに使ったロゴ。パリ地区のポビニー製粉所のロゴから抜粋した小麦の束。多くの麻袋製造の専売特許を所有し、それらの麻袋を有料で貸し出ししていた「サン・フレール（聖なる兄弟）」信託会社のロゴを中心にしたアレンジメント、など。ジュートの布地には、1940年～1960年製のリンネルまたは木綿とリンネル混合の生地を使用し、染色は私たちの工房で施されます。

注：各デザインのクッションは、生地の入手状態に応じて一個から百個製造されています。ラ・プティット・ファブリクでは現在、3000個のクッションを製造できる生地を有しています。



フランスの歴史とフランスの物語・・・事例



フランス中の工場を回って布地を集める中で、ラ・プティット・ファブリクは1930年代～1960年代のクラブチェア（深い安楽椅子）やチェスターフィールド・スタイルの肘掛ソファの布張りや個性的なデザインのベンチの製造も手がけています。

「サンジャン」コレクションの名前は、サン＝ジャン＝アン＝ロワヤンという町の名前に由来するものです。かつて生地工場があったこの町からは、1950年代に使われていた布地束運搬用の粗目のリンネルとレザー製の袋を調達する地束運搬用の粗目のリンネルとレザー製の袋を調達することができました。この布地からは二つとして同じ物のない作品が作られていきます。いくつかの作品は、すでにフランス、イタリア、ドイツのホテルの室内を飾っています。



プレス/メディア



2013 年秋の
プレス・リリース

TV 2013



コダマ装芸企画 株式会社 所在地:埼玉県川口市前川町4-216-1
 TEL:048-261-4380 FAX:048-261-4381
<http://www.interior-kodama.com/>